

事業名称	姫路城築城石持道の情報発信による観光地域づくり事業
団体名・代表者	築城石持道研究会（代表：塩本知久）
協働の相手方	観光経済局観光コンベンション室、城郭研究室

目的	姫路城の築城に際して材木や石材の運搬路として整備、活用されたとされる野里街道を中心として、姫路城築城に関わる遺跡、史料の研究、整理を行い、その成果を市民や観光客に広く提供することにより、新たな視点による観光地域づくりを推進することを目的とする。
内容	姫路城の築城過程に関する情報提供の充実を図り、新たな歴史文化観光ルートの開発を提案することにより、新たな側面から姫路城と城下の地域の魅力を高めることを目指して、以下の各取り組みを行った。 ・築城資材調達に関する公開講座、石切場と石持道の現地説明会 ・石切場及び石持道を図示した「姫路城石垣普請の道を辿る」パンフレット制作
事業経過	9月15日 公開講座「近世城郭の築城資材の調達と運搬について学ぶ」開催 11月4日 「石切場現地説明会と石持道巡り」開催（増位山～野里街道） 3月26日 パンフレット「姫路城石垣普請の道を辿る」制作完了
事業の効果	姫路城と城周辺地域との関わりという新たな視点による観光地域づくりの提案として、姫路城から北東に位置する増位山周辺の築城用石材採取地後と同地と姫路城を結ぶ野里街道を「姫路城石垣普請の道」として紹介するパンフレットを制作した。制作したパンフレットは、広く一般に提供するとともに、城郭研究の専門家、専門機関にも広く提供した。また、専門家による公開講座や現地説明会を開催し、市内外から多数の参加者を得て、本事業で提案する観光地域づくりの有効性を確認することができた。
今後の展望	今回の成果を活用して、今後より多くの市民及び観光旅行者に姫路城の新たな魅力を知っていただき、新たな観光需要の獲得と、観光効果の市内広域への波及への手掛かりとしたい。

【実施団体の事業総括・感想等】

現地説明会は交通の不便な山中を起点として実施したにも関わらず、定員を超える応募があり、実施後にも極めて好意的な感想をいただいた。本事業で提案した視点の可能性を大いに実感した。

【協働の相手となった所管課の感想等】

・姫路城の石材にスポットを当て、増位山から野里街道、姫路城が繋がり、観光客の回遊性向上に繋がる取組であった。現地説明会の街歩きには参加者が多数集まるなど、コンテンツとしての魅力を感じた。今回製作パンフレットの観光案内所で配布を行うなど、野里街道を始めとする姫路城周辺エリアの魅力のPRを引き続き行っていきたい。

・住民有志は地道な調査を通じて地域の文化財に光を当て、町おこしの可能性を探ろうとしてきた。その詳細な調査には頭が下がる。これまでの活動の一端が成果となったのは喜ばしいことであり、彼らの活動に敬意を表したい。これからもこの活動が細く長く続くことを期待する。